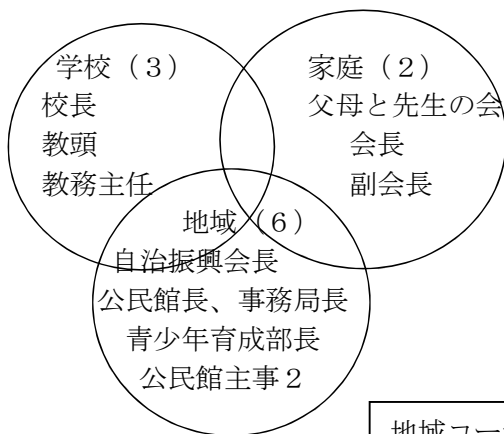


## 1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



地域コーディネーター 4名  
自治振興会長、東公民館長  
自治振興会事務局長、自治振興会青少年育成部長

### (2) 協議会の内容 (3回)

7月 第1回協議会

- ・令和元年度の教育活動計画についての説明・質疑応答

10月 第2回協議会

- ・家庭・地域・学校の現状と意見交換
- ・学社融合について

3月 第3回協議会

- ・学校評価の結果と令和2年度に向けての話し合い

### (3) 協議会における成果と課題

- ・学社融合として学校と公民館との間で毎月連絡会を行っているが、その中の3回分を「家庭・地域・学校協議会」としてPTA役員の方にも参加していただいている。PTAの方々も日頃から公民館と連携を密にされているので、意思疎通は問題ないが、平日の16時開催ということで出席できないことが多い。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

平成28年度より武生東公民館が移転し本校に隣接するようになった。学校と公民館が廊下で接続し、地域と学校が名実ともに近くなった。そこで、学校教育の学習の場と社会教育の活動を部分的に重ね合わせて地域とはぐくむ学社融合の学校づくりをめざしてその推進に努めた。地域の方が授業やクラブ活動の講師として関わってくださったりすることを通して地域への愛着を深め、子どもたちが地域行事に積極的に参加しながら、ふるさとに誇りを持って新たな活力を生み出す人材に育っていく。」というこの事業の目的を踏まえ、今年度の活動計画を立てた。

### (2) 活動の実際①公民館 (自治振興会) との連携

4年生以上が参加するクラブ活動の講師に、日頃から公民館で活動されている方を講師として願いました。モノづくり、まなび、茶道、チャレンジ、ニュースポーツ、ダンスの6つのクラブを設け、1年を通して同じメンバーで計画的に活動した。地区の文化祭では、それぞれのクラブごとに活動内容を発表した。

6月には、4年生が公民館に宿泊し、そこから学校に通学する合宿通学が二泊三日で行われた。地域の方や学生のボランティア、保護者の方が様々なメニューを準備していただき、全員でドミノを完成させたり、キャンドルサービスや、新聞紙でドームを作ったりしながら、ふだん学校ではできないことをたくさん体験できた。

11月には、地域の高齢者と本校の子どもたちが一緒に給食を食べながらふれあう「いこいのつどい」が公民館で開催され、6



年生が参加した。児童数より高齢者の数が多い中でふれあい活動だったが、子どもたちは事前に高齢者の方々への対応の仕方を話し合い、温かな雰囲気の中でいっしょに食事ができ、地域の皆さんから好評をいただいた。



また、冬季に東公民館の玄関や北校舎3階を飾るイルミネーションについて、子どもたちからアイデアを募集したり、縦割り班で実際に組み立てたりした。イルミネーションのデザイン応募には、ほとんどの児童が応募し、本年度は東京五輪のマスコットをモチーフにしたものが選ばれた。

1月には、自治振興会とPTAがタイアップして、公民館と体育館の間のふれあい広場を中心に、学校と公民館を使って「冬遊フェスタ」が行われた。

## ②「福井ふるさと教育フェスタ」での発表

2月8日に福井県民ホールにて開催された「福井ふるさと教育フェスタ」の場において、これまで地域と連携した様々な取り組みについて、6年生児童全員で発表した。特に、これまで58年間続いた姉妹校である静岡県積志小学校との交流を中心に、地域住民の深い愛情を得ながら、合宿通学や地区文化祭、読み聞かせイベントなど地域と連携した内容を、児童のパフォーマンスやプレゼンを使って発表した。

## (3) 地域コーディネーターの活動概要

毎月1回、地域コーディネーターと本校の校長、教頭、教務主任が公民館に集まり情報交換をする場を設けている。地域行事と学校行事を照らし合わせ、子どもたちが地域に関わる行事について、企画内容を綿密に話し合っている。

## (4) 特に工夫した事項

- ・いこいのつどいでは、6年生がプラバンでストラップを作り、高齢者の方々にプレゼントして好評だった。
- ・「福井ふるさと教育フェスタ」での発表では、58年前の東小の児童が、風船を飛ばして遠くの子どもたちと交流したいという夢について劇を交えて紹介し、この取り組みが地域住民の世代を越えた宝になっていることを発表した。

## (5) 成果と課題

毎日のように地域の方が学校に来られ、ゲストティーチャーやボランティア活動をされている姿を見るくらい、本校は地域人材に恵まれている。そして、授業や行事の運営に関わっていただくことで子どもたちの学びが深まっている。子どもたちも地域の方々に顔を知っていただき、声も掛け合っただけで、地域から温かく見守られたという経験をもとに、将来自分たちが地域を大切にしようとする心が育っているものと思われる。

クラブの運営については、地域の講師の方と学校の職員との連絡の場を設けているが、子どもたちの発想を生かしたり、子どもたち同士が話し合ったりする場をどのように設定していくかが今後の課題である。どうしても大人のやり方を子どもたちに伝える、教えるという方向になりがちな点を今後改善していきたい。また、クラブの活動に必要な材料費等がクラブによって差が生じてきたため、今年度から前期・後期と分け、参加するクラブを入れ替えた。しかし、茶道クラブ等から、半年では習得させたい作法が身につけにくいことや、後期クラブの発表の場が持ちにくい等の意見があり、今後学校と公民館との話し合いが必要である。